

指導教員名

山川拓也

活動区分

地域活性化型

連携先

自治体・国

～ 2022年度 洲本市×流通科学大学 域学連携プロジェクト ～

活動の様子



取り組む課題

今年度の大テーマは「鮎屋(あいや)地区」の観光資源・特産品を活用した地域活性化提案で、オートキャンプ場の活用を含めた地域活性化について学生目線で提案する。



本学(学生)の役割

5月にフィールドワークを実施し、現地でしか得られない情報や体験を踏まえたうえで、7月の中間発表に向けて各グループごとに調査・企画を立案する。その上で、8月下旬～9月上旬頃に関係者に対する最終発表を行う予定である。

企画・活動概要

2020年度にスタートして今年で3年目となる『域学連携事業』で、洲本市の住民・行政と大学が連携して地域の活性化を図る(課題解決プロジェクト)と位置づけられている。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

今回の教育成果としては、観光の実体・実相をステレオタイプのイメージ化されたレンズで認識することを超え、これまでとは異なるレンズで視野広く捉えるといった「クリティカル・シンキングの基礎」・「観光マーケティングの方法論」を身に付けることができたのではないかと考えている。



経緯・背景・目的

洲本市と本学による社会共創プログラムとして、鮎屋地区の観光資源・特産品を活用した地域活性化を目的とする調査ならびに提案を実施する。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
観光学科
准教授
山川拓也(ヤマカワタカヤ)

<専門・担当科目等>
観光経済学、
観光マクロマーケティング、
観光消費文化論

<関係者・企業等>

洲本市